

EFRAG 創立 15 周年式典の報告

ASBJ 常勤委員 **かわにし やすのぶ**
川西 安喜

はじめに

2016年7月6日、欧州財務報告諮問グループ（EFRAG）創立 15 周年式典がベルギー・ブリュッセル市内のホテルで開催された。約 140 名が出席し、企業会計基準委員会（ASBJ）からは小野委員長、小賀坂副委員長及び筆者が出席した。本稿ではその模様をお伝える。

式次第

式次第は次のとおりであった。

- Andrew Watchman（EFRAG 技術的専門家グループ（TEG）議長）による歓迎の挨拶
 - Matthew Baldwin（Jonathan Hill 欧州委員会（EC）委員¹の首席補佐官）による基調講演
 - Françoise Flores（前 EFRAG TEG 議長）によるクイズ
 - パネル・ディスカッション「IFRS の影響度分析」
 - Andrew Watchman（EFRAG TEG 議長）、Stig Enevoldsen（EFRAG ボード・メンバー、前 EFRAG 議長）、Peter Walton（オープン大学名誉教授）による鼎談
 - パネル・ディスカッション「小規模上場企業による財務報告」
 - Jean-Paul Gauzès（新 EFRAG ボード議長）による結びの挨拶
- 以下では、2つのパネル・ディスカッションの模様を紹介する。



1 イギリス選出の Jonathan Hill EC 委員は、同国の欧州連合（EU）脱退を巡る国民投票の結果を受け、この日までに辞意を表明しており、式典を欠席した。

パネル・ディスカッション「IFRSの影響度分析」

【司会】 Claes Norberg（EFRAG ボード副議長代行）

【パネリスト】 Hans Hoogervorst（国際会計基準審議会（IASB）議長）

Erik Nooteboom（EC 金融安定・金融サービス・資本市場同盟総局（DG FISMA）ディレクター代行）

Kris Peach（オーストラリア会計基準審議会（AASB）議長兼 CEO）

Patrick de Cambourg（EFRAG ボード・メンバー、フランス会計基準設定主体（ANC）議長）

Joachim Gassen（ベルリン・フンボルト大学教授）

Vickie Wood（欧州会計規制委員会（ARC）英国代表、英国ビジネス・イノベーション・技能省アシスタント・ディレクター）

IFRS の影響度分析を行うことの重要性について活発な議論が行われた。

Hans Hoogervorst 氏から、良い会計基準は悪い状態にある企業を早期に察知し、企業が対応できるようにするため、短期的にはボラティリティがあっても、長期的には経済的な安定性をもたらすものであるから、短期的な視野で影響度を考えるべきではないとの発言があった。

また、Kris Peach 氏からは、会計基準のエンドースメントの判断にあたっては、個々の会計基準が受け入れられないほどに悪いものかどうかという視点だけではなく、悪い会計基準が積み重なって会計基準の体系として受け入れられないものになっていないかどうかという視点も必要であるとの発言があった。

パネル・ディスカッション「小規模上場企業による財務報告」

【司会】 Olivier Boutellis-Taft（欧州会計士連盟 CEO）

【パネリスト】 Michel Prada（IFRS 財団評議員会議長）

Valérie Kinon（クレアフィールド・ベネルクス アソシエイト・パートナー）

Roger Marshall（前 EFRAG ボード議長代行、英国財務報告評議会（FRC）企業報告評議員会議長）

Peter Malmqvist（スウェーデン財務アナリスト協会会長、EFRAG ユーザー・パネル・メンバー、資本市場諮問委員会（CMAC）共同議長）

Andrew Watchman（EFRAG TEG 議長）

小規模上場企業による財務報告について活発な議論が行われた。特に、規制されていない（IFRS の使用が要求されていない）上場企業が使用すべき会計基準について議論が行われた。

Michel Prada 氏から、EU の資本市場同盟（CMU）² 構想を実現するためには会計基準を統一する必要がある、それは IFRS に統一することを意味するとの発言があった。

また、Roger Marshall 氏から、SME が IFRS を適用することが重要であるものの、すべての SME に強制する必要はないのではないかと発言があった。

2 EU が構築しようとしている欧州の単一資本市場のこと。